

# 「災害時要援護者への対応」

- ★ 高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児・外国人など、災害時に支援が必要となる可能性の高い方は「災害時要援護者」と呼ばれ、特に留意して対応します。
- ★ 以下の要領で、物資や生活環境など、可能な範囲で優先的な対応を実施します。  
(シートEは1枚です。)

～ ∞ マークが付いている項目は、各シートの実施状況を確認してください ～

## 高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児などへの対応

チェック → 継続

☐

避難者の障害・体力などを考慮し、環境の良い避難スペースを配置します。  
(シートA) ∞

- \* 体育館の中では、トイレに行きやすい場所やなるべく広いスペースを配慮
- \* 教室などの別の部屋が使える場合は、優先的に確保する など

チェック → 継続

☐

避難所での生活が困難な場合は、より良い環境への移動について調整します。  
(シートA) ∞

- \* 市民センターなど生活環境の良い施設への移動を、運営委員会で検討する。
- \* 介護士などのいる福祉避難所での受入れを、区災害対策本部と調整する。

チェック → 継続

☐

食料などが全員に配付できない場合は、体力的な面を考慮して災害時要援護者に優先的に配付します。(シートH) ∞

チェック → 継続

☐

粉ミルクなど、避難所にない食料や物資は、必要数を把握して区災害対策本部に報告し要請します。(シートH) ∞

- \* 町内会や居住組ごとに必要な数を取りまとめるなど、必要数を把握し報告します。

チェック → 継続

☐

区災害ボランティアセンターの開設後、ボランティアの要請を検討します。  
(シートL) ∞

- \* 介添えなどの支援が必要な場合は、災害ボランティアセンターに派遣を要請します。
- \* 専門的支援は、避難所担当職員が区災害対策本部に派遣状況を確認し、要請します。

外国人支援や、在宅の災害時要援護者への支援については裏面へ

## 外国人への対応

チェック

☐

避難所内に「災害時多言語表示シート」を掲示します。

- \* 避難所運営用品の中の、黄色いプラスチックファイルに綴じた「災害時多言語表示シート」を活用しましょう。
- \* 簡単な日本語でゆっくり話したり、外国語ができる方の協力を得て対応しましょう。

チェック → 継続

☐

食事など、文化や習慣にできる範囲で配慮します。(シートH)



- \* 宗教などにより食べられないものなどがある場合は、できる範囲で配慮します。
- \* 災害直後は禁忌品を含まないアルファ米で対応し、支援が始まったら配慮します。

チェック → 継続

☐

通訳や外国人への情報が必要な場合は、「仙台市災害多言語支援センター」に連絡しましょう。

- \* 大規模災害発生時に仙台国際センター内に設置され、外国語による情報提供や相談受付、避難所への通訳派遣などを行います。

### 仙台市災害多言語支援センター

TEL: 022-224-1919, 022-265-2471

FAX: 022-265-2472

場 所: 仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山、仙台市博物館向かい)

運 営: (財) 仙台国際交流協会

## 在宅被災者への対応

チェック → 継続

☐

避難所に避難できず自宅で生活する災害時要援護者については、各町内会などで把握している情報をまとめます。(シートB)



- \* 町内会で把握している方、民生委員の確認で分かった方などの情報をまとめます。

チェック → 継続

☐

物資や情報の提供、安否確認などを、町内会などの協力で実施します。

- \* 自宅への支援を行い、必要があれば、福祉避難所などへの移動について区災害対策本部と調整しましょう。

シートEは1枚で終了です。上記に留意して、避難所閉鎖まで継続してください。